
山梨大学教育学部附属教育実践総合センター

センターだより第201号(通巻第268号)

2022年9月30日 発行
山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790
E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

■「令和4年度 第1回 教師力養成講座」の報告

- 1 実施日 令和4年7月13日(水) 14:50~18:00
- 2 開催場所 A会議室およびN11(対面)
(都合により受講できない学生はPanoptoを利用したオンデマンド
または対面補講で受講)
- 3 次第
 - (1) 開会行事1
 - (2) 講演1
 - (3) 開会行事2
 - (4) 講演2
 - (5) 閉会行事
- 4 受講者数 110名(対面)



7月13日(水)、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「第1回教師力養成講座」を開催しました。本講座は、主に学部3年生を対象に、現場経験豊富な各講師のワークショップを通して、「質の高い教員の養成・教員就職率の向上」「後期実習への目標設定と指導力の向上」を目的に企画されました。当日は、感染症対策のため2会場に分かれた対面形式で行われ、110名が、両講演もしくはいずれかの講演を対面で受講しました。

講演Aは、法政大学の辻本昭彦先生を講師としてお招きし、「コミュニケーション能力を問うー教育実践ベースの非認知能力についてー」という演題でご講演いただきました。まずは、コミュニケーション能力をどのように育成するのか、2つのワークショップを通じて実感し、次に、コミュニケーション能力の効果について、実践ベースのレクチャーを通じて知り最後にこれまでのワークショップを通じて非認知能力について考察を深めるという講演でした。

講演Bは、教育実践総合教育センターの古屋が担当し、「主体的・対話的で深い学びをデザインする」という演題で講演を行いました。構成的エンカウンターを利用したアイスブレイクから始め、育成すべき三つの資質・能力とアクティブラーニングについて概括的にレクチャーしました。そして、後半は前半の内容を、授業場面を利用し

たグループワークで体験し、さらに、実際に授業を構成するための発問について考察する内容の講演を行いました。

講演 AB ともにワークショップ（グループワーク）が多く行われました。その際、客員教授の皆さん方に各グループの話し合いを見守ったりご指導いただいたりご支援をいただきました。

当日、他の授業があるなど、都合により受講できない学生は、Panopto を利用したオンデマンド方式もしくは補講によって受講しました。両講座ともオンデマンドもしくはオンデマンド+補講の受講者は17名、また、対面による補講には3名が受講をしました。

受講後には、オンラインでのアンケートを行いました。アンケート集計に詳細を掲載いたしますが、受講した学生にとって多くの学びがあった講座であることが伺えます。自由記述欄にも多くの前向きな意見が寄せられました。

山梨大学教師塾プログラム2022・教師力養成講座1 アンケート集計結果

〈回答数当日アンケート115〉

1、目的と考察対象

* 目的

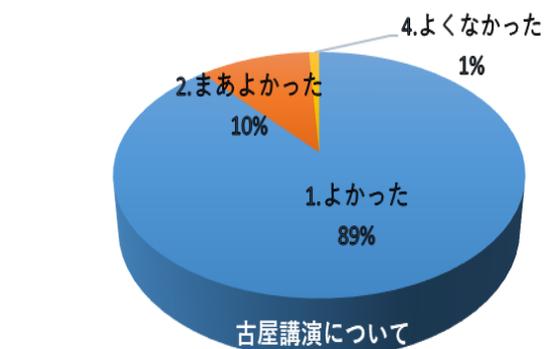
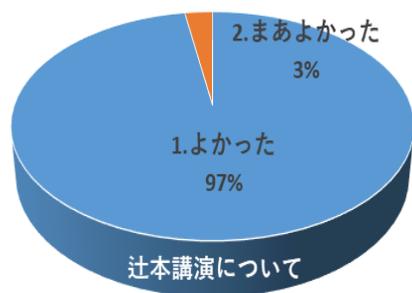
・教育に対する情熱と使命感、豊かな専門的知識や実践的指導力を有し、教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成を図るとともに、山梨県内の国立教員養成学部として、教員就職率の向上を目指す。
・後期教育実習に向け、教科等の指導法や実習の進め方等について実践的に学ぶことを通して、後期実習への目標を新たにするとともに、実践的指導力の向上につなげる。

以上の目的等から、以下の5点について事後アンケートより考察する。

- ①「教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成」
- ②「教員就職率の向上」
- ③「教科等の指導法や実習の進め方等・実践的指導力」
- ④「後期実習への目標を新たにする。」

2、アンケート分析

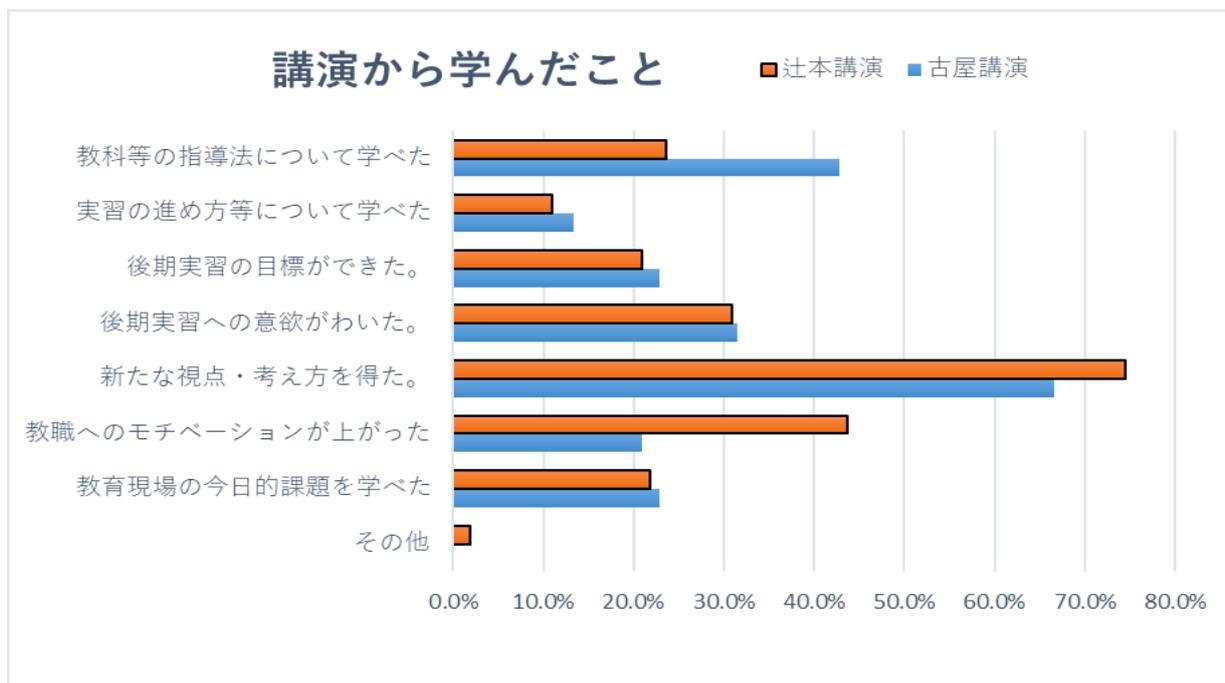
(1) アンケート1



・両講演とも「よかった」の回答が大部分であった。多くの受講生に好意的に受け止められた。

(2) アンケート2

- ・「新たな視点・考え方を得た。」について三分の二以上の受講生から支持された。
- ・「教職へのモチベーション向上」は辻本講演の受講生の四割以上から支持された。
- ・「教科等の指導法について学べた」は古屋講演の受講生の四割以上から支持された。
- ・「後期実習への意欲・目標等」「教育現場の今日的課題」については、両講演とも二割から三割の受講生がから指示された。
- ・「実習の進め方」に関しては一割程度の支持率であった。



*講演内容から両講座において受講者が学んだことについての特徴が出た。辻本講演は「教職への意欲向上」について、古屋講演は「教科等の指導法」について効果が高かったことと、両講演とも受講生に教育について新たな刺激を与えたことが推察される。

*自由記述から、辻本先生の講演では、コミュニケーション力や自己肯定感などの大切さを実感しており、自分や教職に関しての心の問題について、グループワークを通じて思考を深めていることが推察される。そのことが、教職へのモチベーションの向上につながっているのではないかと推察される。

また、古屋講演からは、主として授業に関して、アクティブラーニングの知識やその実際の方法を、演習を通して体験し、特に「深い」学びや「発問」に関して理解を深めたことが推察される。そのことが、実習に向けての教科等の指導法の会得につながっているのではないかと推察される。

実際の記述より

*社会で生きる上で自己肯定感が重要だと言う話はよく聞いていたが、今までその上げ方がわからなかった。しかし、今回の講演で、自己肯定感を上げる鍵は他者との関わりや協働の中にあるものだと気がついた。将来教職になったら、最初の授業で今回のような活動を行いたいと思った。(辻本講演の感想より)

*主体的・対話的で深い学びということは大学の授業でもよく聞きますがこれまでは教科ごとに様々な指導法を学ぶことが多かった中、各教科の知識を関連させながら学んでいくことの重要性を知ることができました。頭では理解しているつもりでも誰かに話そうとするとなかなか伝わらなかったり人の意見を聞いてより多様な視点を得たりと、グループで学習することでより学びが深くなるのだと思いました。発問については前期実習で非常に難しいと実感していたことだったので、今回の講演で学んだことを活かして生徒に寄り添って自ら考えたいと思わせるような発問づくりができるように工夫していきたいです。

② 受講生の教育実習への思いに関して (昨年度の講座との比較)

昨年度2月、主として2年生が受講した教師力講座2の自由記述から、教育実習への不安が大きいと分析された。しかし、実際に実習を体験し、不安が解消されたためか、不安という記述は一件に減少した。さらに、今回の自由記述では、実習と学ぶことや発問・授業や児童・生徒など多彩なつながりが読み取れる。本講座を受講したことで、実習に向けて新たな目標や意欲が出たと推察される。

教員になることや教育実習に行くことに不安を感じている人は多いということです。一人で教育実習に行ったり、副免許の関係で後輩たちと行くことになったり不安でいっぱいでした。そのような人が自分のほかにいるというのが支えになりました。自己肯定感を高めながら頑張っていきたいです。

授業に自信がなく教育実習を不安に感じていたが、児童理解の大切さについて聴き、児童理解なら自分にもできるかもしれないと思えた。そのため、有意義な授業になったと思う。

R4 自由記述

*子どもの良いところをたくさん見つけて伸ばし、子どもの自己肯定感を高める指導ができる教師となれるよう、後期の実習では、まず良いところを探していくことを心がけようと思う。

*今回の講演を通して、どのようにしたら良いのか、発問の仕方など学ぶことができたので、後期実習で活かしていきたい

*（実習で体験した）これらのことを教師という職業に活かすために、まずは教育実習の中でコミュニケーションを通して生徒が主体的に学ぶことのできる授業を考えてみたいと思いました。

③意見要望に関して（提言等）

アンケートの自由記述はおおむね好意的な意見だったが、中には、意見や提言もあった。以下に特徴的であった記述を記す。

*質疑応答の時間をもっとしっかりと取れたらいいと思った。

*どちらの講演もぜひ対面で受講したかったので、来年度からは集中講演などにしてみると良いのではないかと考えた。

*オンデマンドでの受講でしたが、みやすかったです。ありがとうございます。

3 まとめ

(1) 目標に関して

① 「教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成」について

「今日的課題を学んだ」と直接回答した受講生は両講座とも2割程度いた。また、7割程度の受講生が「新しい視点・考え方を得た」と回答しているが、講演の内容が教育現場における今日的課題であることを考えると、今日的課題に関する知識とその対応について多くの受講生が学びを実感したといえる。

② 「教員就職率の向上」について

主として辻本先生講演において、コミュニケーション力や自己肯定感など心の問題について、グループワークを通じて深く学んだことが教職へのモチベーションの向上につながり、ひいては教員就職率の向上につながると考えられる。

③ 「教科等の指導法や実習の進め方等・実践的指導力」について

主として古屋講演において、アクティブラーニングを体験し、特に「深い」学びと「発問」の重要性について理解を深めたことが教科等の指導法や実践的指導力の会得につながると考えられる。

④ 「後期実習への目標を新たにする。」について

両講演の自由記述から、実習は不安ではなくなり、実習に向けて、児童生徒とのコミュニケーションや発問・主体的な学びなどの新たな目標や意欲が出たと推察される。

以上のことから本講座は目的に即して効果があったと考えられる。

(2) その他

- ①今回は授業等の関係で直接受講できなかった学生がいたことは反省点である。しかし、新しい動画配信システムである「Panopto」が簡便かつ有効に使えることがわかり、学生からも好評だった。
- ②会場を感染症対策のため二会場でおこなったが、グループワークをメインとする講演としては人数的にもよかった。

自由記述 (抜粋)

辻本先生の講演の感想

- *私はオンデマンドでの受講だったが、その場にいるかのように楽しみながら講演を受けることができて良かった。後期実習への意欲がより一層湧いてきた。
- *私は笑顔のプレゼンという項目が非常に良いと思いました。自己肯定感が低いことは現在の子供にとって非常に深刻な問題であると感じています。非常に良いと思いました。他にもダイヤモンドランキングなど今後の進路決定において非常に参考になる内容がたくさんありました。
- *働く意義を考える機会是他ではなかなか無く、映像で他の人の意見などを聞いて自分でももう一度考え直して後期実習に臨みたいと思います。
- *大学の講演でのグループワークは、すごく静かな感じで笑顔もあまり見えないが、辻本先生の講演でのグループワークはみんながすぐに打ち解けているようで驚いた。私もオンデマンドではなくリアルに体験してみたかったと感じた。
- *初対面の人ばかりで不安だったが、グループワークで終わる頃には少し緊張がほぐれた。いろいろな意見が聞けたグループワークだった。
- *前回のオンラインでの講演がとても楽しかったので本講演もとても楽しみにしていました。座学だけではなくコミュニケーションを通じて授業を展開することに興味が湧きました。教職についた際には、絶対に実践したいと思いました。
- *自分が授業でこだわりたいと感じていたこと（ディベートやディスカッションを用いた授業構想）にも関連させてみると、非常に参考になりました。
- *グループでのワークショップ活動と育てたい資質能力について、実践とともに新たな視点を持つことができた。児童生徒も思っているよりも取り組むことができている可能性を感じた。また、褒められることという機会を提供することを生かしていきたいと考える。
- *社会で生きる上で自己肯定感が重要だと言う話はよく聞いていたが、今までその上げ方がわからなかった。しかし今回の講演で、自己肯定感を上げる鍵は他者との関わりや協働の中にあるものだ気がついた。将来教職になったら、最初の授業で今回のような活動を行いたいと思った。
- *どうしてこんな議論ができるのかの元にあるのは、子どもたちの自己肯定などの非認知能力にあることを知り、児童生徒はその子たちが自分で思っているよりもすごいことができることを分かることを先生も児童生徒も理解することが大事だしもっと伸びていくことがわかった。
- *対面授業でグループワークをすることがあまり無かったため、色んな人と意見を出し合いながら考えることは楽しいなと感じた。
- *コミュニケーションと自尊感情の大切さを感じた。
- *いつの間にか授業が終わっていると久しぶりに感じた授業だった。今回行ったようなコミュニケーションを基本として、いろいろな学習活動に繋げることが大切だということがわかった。
- *今日の講演を通して、私は非言語的コミュニケーションが苦手だと気付いた。パantomイムで何も表現をすることができなかったのが反省だ。ダイヤモンドランキングでは、グループでのランキングと自分のランキングは異なるところが多々あったが、他の人の意見を聞きながら自分とは違う価値観について考え、新たな視点を自分のものとすることができた。

古屋講演の感想

- *主体的対話的で深い学びという言葉は何度も聞いたことがあり知っていたが、その言葉の意味するものは曖昧だったので、今回の講演で具体例も交えながら知ることができて良かった。
- *私は学習意欲についての話題がとても参考になりました。学習はしているのか、させられているのか、など古屋先生に聞いた以外にも自分で考えさせられる内容がたくさんあり、非常に良かったです。
- *「何を知っているのか」ではなく「知っているものを活用できるか」が新しい時代に必要な力であるというお話に強く共感した。教育現場ではついつい何を知っているのかが重要視されてしまいかちであるが、その一歩先の段階を目指して授業を作っていくかなくてはならないと感じた。
- *答えがないものを話し合いそれぞれが自分の意見を伝えることが難しく感じた。スピードのある、雑談でそれぞれがどんな感じの人なのか少しよみとれる部分もあった
- *人との少しの対話でも考えが変わったり新しい知識を得ることができたりして、人と話すことはとても大切だと感じました。
- *初めの「菜の花や〜」の話で、専門科目に関しては見方考え方をしっかり知っていても、教科ごとの見方考え方を知らないのだと気づき、これからしっかり勉強したいと考えた。
- *アイスブレイクから始まるアクティブラーニングを通して、教科のつながりなど主体的で深い学びについて新たな視点を持つことができた。
- *教師と子ども両サイドの考え方を考えるきっかけになった。
- *子どもたちの考えることと、教師の視点の違いがよくわかった。将来教職になったら、子供の心と視点に寄り添える柔軟な人間になりたいと思った。
- *さまざまな教科を関連付けて学ぶ楽しさを感じることができた講演でした。一番印象に残ったのは、児童から出る疑問と、先生が考えさせようとする発問に差ができてることによって、児童が考えたいことなのかというお話です。発問を考えるのは難しいけれど、このことを後期の実習で活かして行きたいと思った。
- *前期の実習を通して発問を考えることが難しいと思っていたので、現職の先生も発問を考えることに苦労していることがわかって良かった。児童が学び面白いと思えるような発問を考えることが大切であると思った。
- *月の形を考える講演で、教科横断的な学びと深い学びについての理解を深めることができました。大変ためになる講演でした。ありがとうございました。
- *古屋先生が最後に、答えることではなく問うことを教える教育を根本にそえるとおっしゃっていた。まさにその通りであると思った。生徒たち自らどうして・なんでと疑問を持ち調べる姿勢がみられるような授業にしていく必要があると思った。また、それを活動を通して気づかせていただいた。大変参考になる講演だった。

意見・要望

- *どちらの講演もぜひ対面で受講したいと思ったので来年度からは集中講演などにしてみるのも手だと思った。
- *とてもためになった。次回は授業の被らないときに全時間対面で学んでいきたい。
- *教壇になる意欲が湧いた。また参加したいと感じる講演だった。
- *正直めんどくさかったが、受けてみると割と楽しく面白く出来て良かった。他のコースの方とグループワークがあるとやる気が出るし、面白くできると思った。
- *オンデマンドでの受講でしたが、みやすかったです。ありがとうございます。
- *他の授業と日程が重なってしまい受講できないと思っていましたが、オンデマンド等で受講できるように配慮していただきありがとうございます。
- *実習の合間に行くことで良いモチベーションになったため、とても良い機会だと思う。

■「令和4年度 第1回

不登校の子どもを支える保護者のための情報交換会」の報告

9月9日(金)に教育実践総合センターと山梨県教育委員会とが連携し、不登校のお子さんを持つ保護者ならではの困りごとや、さまざまな思いを分かち合う交流の場を開催いたしました。当日は、小学生から中学3年生のお子さんを持つ保護者13名が参加され、それぞれの思いを語り合う機会となりました。

令和4年度 第1回 不登校の子どもを支える保護者のための 情報交換会

山梨大学教育学部附属教育実践総合センターでは山梨県教育委員会と連携し、不登校のお子さんを持つ保護者ならではの困りごとや、さまざまな思いを分かち合う交流の場を開催します。

会には、臨床心理士・公認心理師を持つ大学教員も参加しますので、気になることをご相談いただくことも可能です。
第1回の情報交換会では「家庭での過ごし方」をテーマに、さまざまな意見交流を行い、保護者として気になることについて、一緒に考えていければと思います。

日時: 2022年9月9日(金)
13:00~14:00
(受付12:30~)

テーマ 「家庭での過ごし方」

生活リズムの整え方や子どもへの声のかけ方、子どもと接する上で心がけていること、保護者の気持ちのコントロールの仕方など、子どもと保護者が家庭内でどのように過ごすかをテーマに意見交流を行いたいと思います。

参加申し込みフォーム

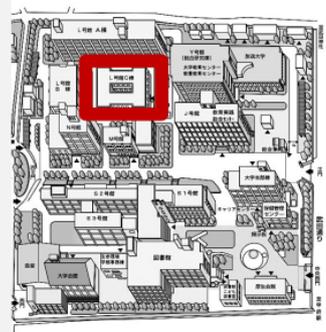
【締切】2022年9月5日(月)



※保護者以外の参加はご遠慮ください。
※感染症対策のため、事前申し込み(定員20名 先着順)とさせていただきます。

会場

山梨大学甲府キャンパス
L号館C棟1F LC-15教室



お問い合わせ

お問い合わせの際は、メールにてお願いいたします。
件名に「保護者の会について」と記載ください。

担当: 山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 川本静香

✉ kyoiku_soudan@yamanashi.ac.jp

◆駐車場はありませんので、当日は公共交通機関を利用してお越しください。
◆感染症の状況により、期日や会場の変更を行う場合があります。その場合は、申し込みの際にいただいたメールアドレスと教育実践総合センターのHPにてお知らせいたします。

教育実践総合センター HP



■山梨大学教育学部「地域学習アシスト事業」紹介リーフレットができました。

この度本学部では、「地域学習アシスト事業」に係る紹介リーフレットを作成しました。

「地域学習アシスト事業」は、令和元年度からスタートし、地域の学校と本学の学生（教育学部生・教職大学院生・専攻科生）及び大学教員が、学校の教育課題を共有し、協働して解決策を探りながら、当該学校の教育活動を支援することにより、学校が抱える教育課題に対応できる実践的な能力を身につけた教員養成を行っていくものです。

内容をご覧いただき、引き続き、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

*リーフレットは、9～10 ページに掲載しました。ご覧ください。

■ センター事業（11月）

第40回教育フォーラム

「子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」のご案内

本学部では、11月15日（火）18時より「子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」～多様な学びの場における支援の在り方～と題し、第40回教育フォーラムを開催いたします。つきましては、特別支援教育に直接関わっている方だけでなく、多くの方のご参加をお願いいたします。

なお、今回は新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、対面とオンラインのハイフレックスで実施いたします。対面での受け入れ人数が限られているため、対面での申し込みの場合でも Zoom での参加をお願いする場合がございます。その場合には直接連絡をいたします。Zoom で参加される方には、開催日が近くなりましたら Zoom の URL をメールでご連絡させていただきます。

※お申込みは下記 URL または、右の QR コードからお願いします。

https://docs.google.com/forms/d/1hLFFun1QG-J_6NDT-OXUOik_XV_C3CYRpEWO3ttf6mYM/viewform?edit_requested=true



※ 2022年11月7日(月)までにお申し込みください。

* ご案内詳細を 11 ページに掲載しました。ご覧ください。

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。

地域学習アシストとは？

- ◆ 山梨大学独自の取組として、令和元年度にスタートしました！
- ◆ 教育ボランティア活動の発展形としての性格をもっています！
- ◆ 学校の実情に応じ、より良い教育の実現を図ります！

【令和3年度 活動例】

- ✓ 大学生と大学教員が小学校のクラスに入り、担任の先生と方針を打合せたり、見とったことを報告したりしながら、大学生が個別支援の必要な子どもに対して学習支援を行いました。
- ✓ 毎回の活動後に、大学で、大学生、教職大学院生、特別支援教育特別専攻科生、大学教員が「チームカンファレンス」を行いました。子どもの行動の分析や、子どもへの関わり方について意見交換を行いながら次に活動する際の方針を考えました。

令和3年度 アシスト活動を終えての声

大学生

ボランティアとして子どもたちと関わるだけでなく、その時感じたこと・考えたこと・疑問に思ったこと等を話せる場があったことで質の高いアシストにつながった。

大学院生

大学生自身の課題を共有し、その課題について全体で検討する機会が非常に勉強になった。課題を活動回ごとに用意してくれていたのが、課題を焦点化して検討できたとよかった。

学校

アシストでは、大学生が子どもを理解して支援する・育てるという教師と同じ視点に立ち、指導者として主体的な活動をしようという意識が高まったように思う。

担任の先生や現職の先生方、アシストメンバーなどたくさんの方と同じ事例をテーマに考えられたことが一番よかったと思う。

アシストに行く学生は、もちろん実践的な学びをすることができたと思うが、現職教員の立場としても、子どもの姿から客観的に支援方法を考えることができた。

児童一人一人を近い距離で、個別対応をきめ細かにしていただいた。そして、その様子を伝えていただくことで担任もそれまで気づかなかったその児童の長所や問題点を知ることができた。

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター 教職支援室

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
TEL.FAX : 055-220-8748
E-mail : edu-kys@yamanashi.ac.jp

地域学習 アシスト 事業

リーフレット



地域学習アシストで実践力を身に付けよう！

- 学校に応じた課題に取り組み、「チームカンファレンス」を通してその課題を解決することを目指します
- 教員採用時から長期にわたり活躍できるように、大学生が自分自身の目でクラスの中の課題を見つけ、課題解決に向けた取組を行うことで、実践力を育てることを目指します



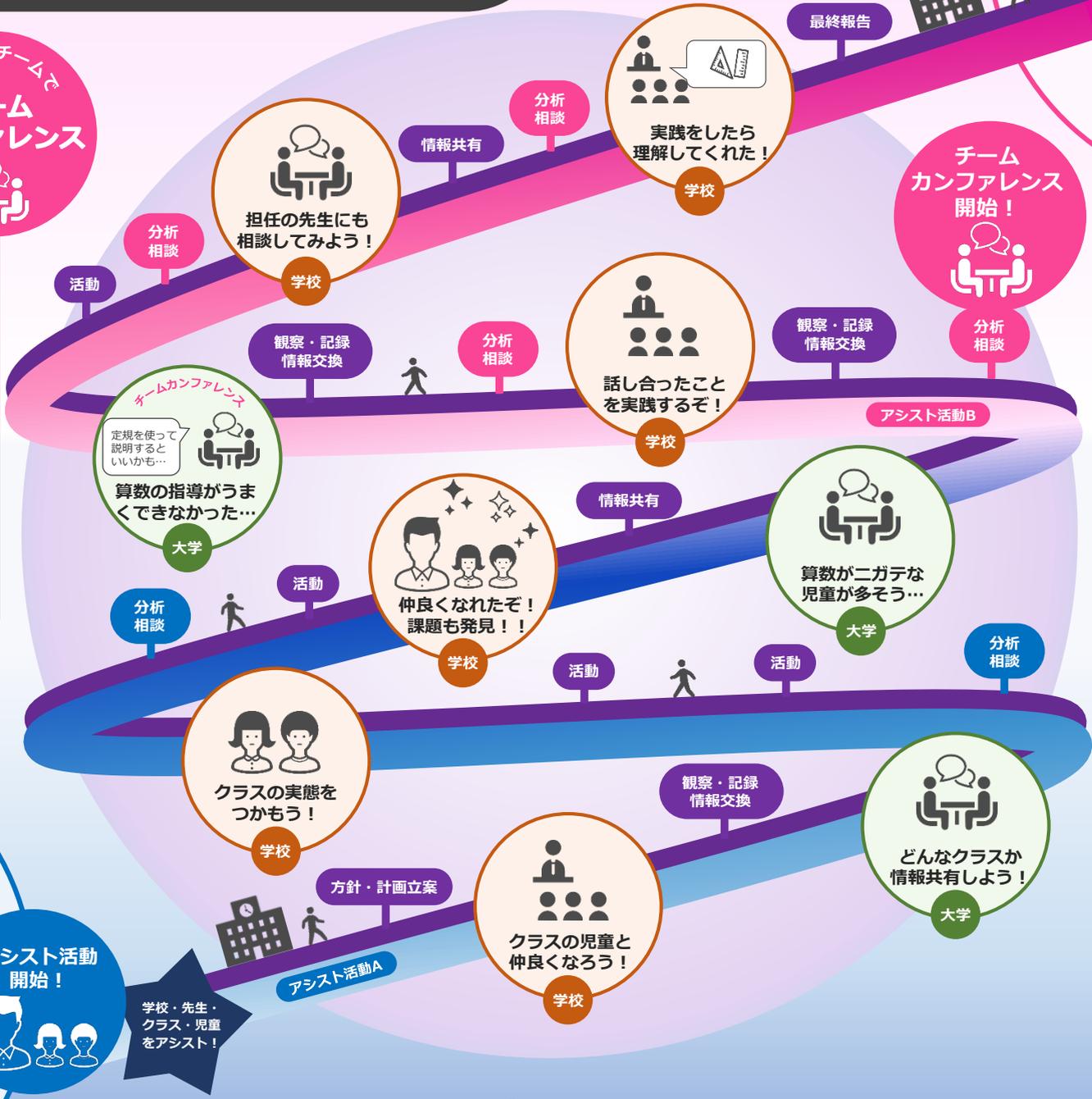
アシスト活動を通して先生になるための実践力が身に付きました

アシストチームで チームカンファレンス



アシスト活動Bでは、

- 大学生・教職大学院生・特別支援教育特別専攻科生・大学教員等から構成されている「アシストチーム」を編成します
- 大学生が学校でアシスト活動を行った後に、その学校の課題解決に向けて、専門的な視点から分析・相談をするための「チームカンファレンス」を毎回行います



アシスト活動B

11月～2月頃

- アシスト活動後に毎回アシストチームとチームカンファレンスを行います
- 学校の課題解決に向けた取組を行い、実践力を身に付けることを目指します

アシスト活動：計12回
チームカンファレンス：計12回

アシスト活動A

6月～10月頃

- 学習面や生活面等の支援を行いながらアシスト先のクラスの実態をつかみ、児童や先生たちと信頼関係を築くことを目的として活動します

アシスト活動：計12回
カンファレンス：5回

毎週同じクラスで児童の支援や課題解決に向けた取組を進めていきます

アシスト活動開始！

学校・先生・クラス・児童をアシスト！

「子どもたち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて」

～多様な学びの場における支援の在り方～

【日時】 令和4年11月15日(火) 18:00～20:00

※対面とZoomによるハイフレックス方式を予定

【会場】 山梨大学甲府キャンパス J号館422教室

■テーマ

近年、特別な配慮を必要とする子どもたちがその可能性を最大限に伸ばすための適切な指導・支援の重要性が高まっています。本フォーラムでは、個別の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向け、特別な支援が必要な児童・生徒への指導について特別支援教育・児童生徒支援課の鷹野美香課長にご講演いただきます。その後、各校種での実践について具体的な事例を参考にしつつ、共生社会に向けた方向性を議論します。

□講師

鷹野 美香 (山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 課長)

□パネリスト

武田 幸子 (南アルプス市立大明小学校教諭)

中島 範隆 (山梨大学教職大学院, 甲斐市立双葉中学校教諭)

佐野 青葉 (山梨大学教職大学院, 甲府昭和高等学校教諭)

菊池 恵 (特別支援教育・児童生徒支援課主査・指導主事)

□コーディネータ

中込 司 (山梨大学教育学部附属教育実践総合センター)

□参加希望の方は、事前に下記QRコードのリンク先より11月7日

(月)までにお申し込みください。前日までにZoomミーティング参加のためのURL等をお送りいたします。



【対象】

教員 学部学生 大学院生 大学等の研究者 県内外の教育関係者 一般市民の皆さん

【主催】山梨大学教育学部

【共催】山梨県教育委員会

【後援】甲府市教育委員会

【お問い合わせ先】山梨大学教育学部附属教育実践総合センター(事務室)

TEL:055-220-8325 FAX:055-220-8790

E-mail:jissen@ml.yamanashi.ac.jp